

総務大臣賞

まちを歩けば花と出会い 花と語ればやさしくなる
～花と緑と交流のまちづくり～

北海道

清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会



毎年5月下旬に、フラワーロード会員により道路沿いの農地約3 kmに渡ってコスモスの播種作業が行われる。満開となったコスモスが町を訪れる方を温かく迎える。



花の植栽は各団体や事業所、自治会、商店、個人等により、子どもから高齢者まで参加する中行われている。日常の管理も「里親」によって管理されている。



耕地防風林が整然と並び雄大な自然環境の中、地域農産物の豊かな実りときれいな水を活用した一村一品の「じゃがいも焼酎」を製造している。

● 事例の概要

○「花と緑の事業」等の環境整備事業と「都市農村交流事業」等の交流事業を「町民と行政のパートナーシップ事業」として推進し、全町民参加による花とみどりに包まれた安らぎと潤いのある地域づくり、交流によるまちづくりを行っている。今年6月に景観行政団体になった。

○2001年度にスタートした清里町第4次総合計画の重点プロジェクト事業として都市農村交流等

を通じた交流人口の拡大による地域の自立と活性化を目指し、町民と行政のパートナーシップ事業として発展させた。

○町の魅力の再発見や住民のまちづくりへの参画に対する関心が高まり、協働のまちづくりのシンボルとして定着し、交流人口の拡大が図られている。

● 評価のポイント

2001年度にスタートした清里町第4次総合計画の重点プロジェクト事業として、豊かな自然環境や農村アメニティをさらに高めるとともに、都市農村交流等を通じた交流人口の拡大による地域の自立と活性化を目指し、「町民と行政のパートナーシップ事業」として発展している。

「町民と行政のパートナーシップ事業」は、環境整備事業と都市農村及び国際交流事業に分かれ、全町民参加による花とみどりに包まれた安らぎと潤いのある地域環境が創出されるとともに、交流のまちづくりが町全体に広がり、地域の活性化につながっている。これらの事業により、町民相互の交流が深まるとともに、来訪者からの花とみどりに包まれた美しい環境に対する高い評価が寄せられ、これを励みにさらに活動が町全体に広がり、町民の自主的気運の高ま

りと地域の活性化につながっている。また、この事業を通じ清里町の魅力の再発見やまちづくりへの参画に対する関心が高まり、協働のまちづくりのシンボルとして着実に定着する中、交流人口の拡大に向けて進展している。

このように本事例は、町民と行政がパートナーとなるとともに、多くの住民も参加している事例としてモデル的な取組みであり、斜里岳の広大な裾野を活用したウォーキング事業や農村等の景観づくりなど、地域の特性・資源を活かした取組みもなされている。さらに、都市住民や海外との交流等を推進し、今後の広域観光の発展や移住・定住の推進にもつながるものと期待され、その活動は過疎地域の優良事例として評価された。

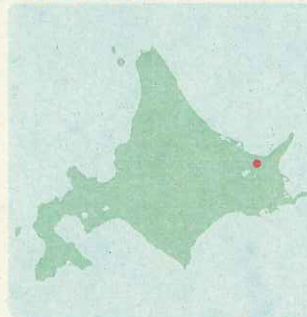


ウォーキングのコースは、ロングコース、ショートコースともに3コースずつ整備されており、四季折々に自然とふれあうウォーキング行事が開催されている。



小学校の校庭では、みしょう（実生）から育てた桜が、100年近い大木となり、子どもたちと地域の皆さんの協力により、大切に守り育てられている。

北海道 清里町



国勢調査人口

(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年
11,012	8,646	6,204	5,705	5,437

人口減少率

(単位:%)

H12/S35	H12/S45	H7/H2	H12/H7	高齢者・若年者比率(H12)
△50.6	△37.1	△8.0	△4.7	高齢者比率 24.7%
				若年者比率 15.8%

交通のご案内

自動車 道央自動車道別川ICから国道333号経由210分、道東自動車道定寄ICから国道242号経由120分

鉄道 JR釧路本線清里町駅から徒歩5分

飛行機 女満別空港からJ/A30分+JR60分(自家用車により直接であれば60分)

団体連絡先

名称 清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会

所在地

〒095-0452 北海道清里町別川13番地(旧清里町役所庁舎内)
TEL:0152-25-2131(代表)
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp